

一年間のふりかえり 庄内こども園 令和6年3月

1	運営管理	<ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育目標に基づき年間指導計画を立て発達段階に合わせた教育・保育を実践しました。定期的な職員会議や園内研修を行い、職員の資質向上に努めました。
2	守秘義務	<ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育業務の中で知り得た秘密情報は、秘密の保持につき全職員に守秘義務の徹底を図りました。
3	安全 危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具の安全点検は毎日行い事故防止に努めました。教育・保育中にケガや事故があった時に、保護者にその経緯と対応を説明するとともに、職員会議で見直し再発防止を行いました。 ・給食における安全衛生対策では食物アレルギーのある子の現状を把握し、保護者と職員間の情報を共有して提供までのマニュアルを再確認しました。 ・避難訓練、地震訓練、風水害訓練、不審者訓練、交通安全教室を実施し子どもたちに安全に対する意識を持たせることができました。 ・感染症ガイドラインに基づき、施設や玩具の消毒、手指消毒の徹底やマスクの着用、室内の換気等を実践し安全対策を行いました。
4	保育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち一人一人が、自己選択からの自己満足へ繋がる遊びの空間を整備しました。 ・季節、気温に合わせて室内温度や換気に配慮し、エアコンを活用しながら活動しやすい環境づくりを行いました。
5	健康 衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> ・年二回園医による内科検診、歯科検診、尿検査、年一回蟻虫検査を実施し子どもたちの健康状態を把握しました。感染症の予防対策として、発生状況を確認し保護者への周知を行いました。 ・大気汚染の影響を考慮し、数値の確認を行い戸外活動の実施決定をしました。
6	保育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を通して行う教育・保育の重要性を意識しながら保育を実践しています。子どもの気持ちに寄り添い一人一人を大切に保育を行いました。 ・「人権を大切に育てる保育」を基本方針に、子どもたち一人一人が見通しを立てて保育に向かうことができるような保育の進め方を実践しました。
7	食育	<ul style="list-style-type: none"> ・菜園活動を通して野菜の生長を子どもたちと一緒に観察し、育てた野菜を収穫して食べることで食への興味・関心を持たせることができました。給食食材についても産地や仕入れを吟味し、子どもたちの健康を第一に考えた食育への配慮を行いました。
8	子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の送迎等で保護者との情報交換を行い、子育てに関する不安や悩みの解消を図るよう助言や対応を行いました。一時預かり事業においても同様に子育て支援を行いました。
9	地域交流	<ul style="list-style-type: none"> ・生活学校と連携を行い、園庭での焼き芋大会、庄内生活体験学校へ出向き、動物とのふれあい、どんぐり拾い、畑見学(色々な野菜が実際にどのように育つのか。)等自然活動を実施しました。庄内地区の文化祭に年長児の作品(お面)を出展しました。
10	苦情報告	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの意見や要望は真摯に受け止め、保育課とも協議しながら対応を行いました。園内で起こった問題についても、そのつど職員会議を行い全職員へ周知し、解決のための取り組みを行いました。

外部評価

・保育のために環境が整備され遊びの場への配慮がみられた。子どもが自分で遊びを選び、満足感や達成感を味わえる保育環境が整っていた。未満児室のクローゼット対応、手洗い場の状況の改善が求められる。
 ・「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を前期・後期と2回行い「適切な保育とは何か」を園内研修等で行い、職員の資質向上に努めている点は評価できる。「人権擁護のためのセルフチェックシート」を年2回実施し、職員間の人権意識の向上を行っていた。
 ・アンケート等の回答で、保育業務、保護者の要求への対応、援助が必要な子どもの増加により保育士一人では辛いというものがあった。保育に関する研修を受けた後の感想文で、職員一人ひとりが保育の問題点や課題を分析していた。研修中の事案を自分のこととして捉えて危機感をもっていることは評価できる。職員間の連携を図り、園内研修等にて保育士の資質向上、保育の質の向上に取り組み続けている点は評価できる。「人権を大切に育てる」を基本方針とし、子どもたち一人ひとりに沿う教育・保育が実践されていることは評価できる。円滑な業務、適切な保育をこなすには職員間のチームワークが大切になってくるため、保育士間の話し合いや保育を客観的にみるための研修等が求められる。
 ・保護者からの意見に関しては、園内で役割分担をして保護者対応を行っている。子育て支援課との連携し問題解決にあたっていた。

第三者委員(松岡えりこ・白土三津代・住谷洋子)